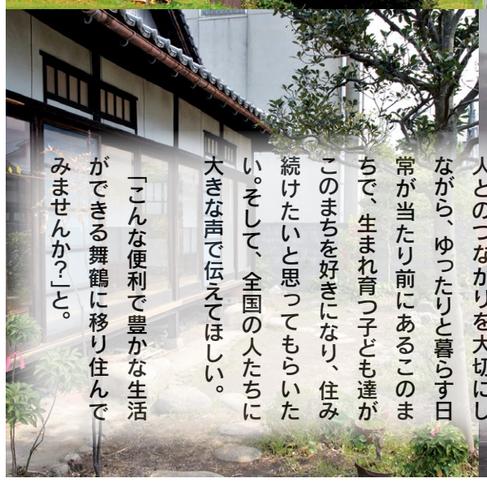
移り住みたくなるまち 住み続けたいまち

心豊かに暮らせるまちづくり
このまちに魅かれ 移り住みたくなるまち

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組む施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、まちづくり戦略「心豊かに暮らせるまちづくり」から「このまちに魅かれ移り住みたくなるまち」の施策をお伝えします。



まちを走ればどこからでも眺めることができる海、山々に囲まれ、至る所に歴史的価値の高い文化財が残る舞鶴。このまちは、質の高い教育、医療を受けることができる。さまざまな仕事の選択肢がある。都市部へも1時間半あればいつでも行くことができる便利さがある。人と人とのつながりを大切にしながら、ゆったりと暮らす日常が当たり前にあるこのまちで、生まれ育つ子ども達がこのまちを好きになり、住み続けたいと思ってもらいたい。そして、全国の人たちに大きな声で伝えてほしい。

「こんな便利で豊かな生活ができる舞鶴に移り住んでみませんか?」と。

「移住者にやさしいまち・舞鶴」宣言

舞鶴に魅かれ、京阪神や関東など全国各地から本市に移住する人は年々増加し、昨年度は13組33人でした。舞鶴というまちを知ってもらうために、大阪や東京で開催される移住相談会へ年間10回以上参加し、移住希望者に直接会って相談に応じています。また、移住定住ポータルサイトの運用や関係機関が開設する移住相談窓口と連携し、舞鶴の良さを発信することで、移り住みたいと思う人たちが着実に増えてきました。

「移住」というのは、人生を左右する大きな決断になります。移住を考えている人が納得いくまでまちを案内し、良いところだけでなく、不便に感じるところも全て話し、きめ細やかな相談を行っています。

そして、何より大切になるのは、受け入れ先の地域の皆さんが安心して移住者を受け入れる環境を作ることで、事前に話し合う機会を設けるようにしています。市はこの両者の橋渡しを担い「自分たちの地域にどんな人が来てくれるのか」「移り住もうとしている地域では私たちを快く受け入れてくれるのか」など、それぞれの期待と不安が入り混じる思いを解きほぐします。移住が決定すれば、お互いに気持ち良く新生活がスタートできることが、皆さんの一番の幸せにつながるのではないでしょうか。皆さんも地域の一員として、移住者を温かく迎え、支援していきませんか。

▼移住定住ポータルサイトは左のコードからアクセス可

移住相談会の様子

家主さんと地域の皆さんに移住者用改修プランを説明

空き家バンクに登録された古民家を改修して新たな生活

まちなか・農山漁村への移住促進と活性化

JR東・西舞鶴駅周辺でスーパーや病院などにも近く、効率的で暮らしやすい「まちなか暮らし」と、海・山・川など豊かな自然をより身近に感じる「農山漁村の暮らし」。移住希望者の求める生活スタイルもさまざまです。

そのため、市では立地適正化計画に位置付けた居住誘導区域内(まちなか)と加佐、大浦地区など(農山漁村)に、それぞれ「空き家情報バンク」を作り、空き家の利活用を進めています。

昨年度は、20~50代の幅広い年齢層の人が、加佐地区を中心に、空き家情報バンクに登録されている古民家などを自分好みに改修し、UターンやIターンで新たな生活を始めています。

これからも空き家情報バンクを充実させ、眠っている空き家に住んでもらうことで地域を活性化し、空き家を積極的に活用していきます。

次代の子どもたちへ伝える「ふるさと教育」の推進

長く住み続けてきた大人が、本市の豊かな自然や歴史、文化などの恵まれた地域資源を十分に理解し、それを教育の現場や家庭で、次代を担う子ども達に伝えることで「ふるさと舞鶴」への愛着を育てます。大きくなっても「住み続けたいまち」「一度、転出してもまた帰ってきたいまち」「舞鶴を離れてもずっと何らかの形で関わっていきたいまち」として心に刻まれるようなふるさと教育が大切だと考えています。

現在も、市長が中学校で講義する「ふるさと舞鶴講義」や、生産者や市の職員が小学校へ出向き、市の特産品である「万願寺甘とう」や「お魚」などの食を通じて舞鶴の良いところを知ってもらう「出前授業」を実施しています。子ども達に「舞鶴はこんなに良いまちだよ」と感じてもらうことで、若者が増え、この地で子を産み、育て、学び、働き、暮らせるまちづくりを目指していきます。

学校給食で「まるごときょうとの日」を実施

「ふるさと舞鶴講義」で市長と話す生徒

施策に関するご意見を

今号の施策に関するご意見やご感想をお寄せください(右下のコードからも可)。

市民や事業所の皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。

▶詳しくは、移住・定住促進課(☎66・1085)へ。